



Amihari
visitor center

Vol.118
2025.1



こんなに雪があるなんて…

ヤマナメクジの雪中行軍

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori * 網張の森の生き物たち * amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori

雪上を歩いていた“ヤマナメクジ”

今冬は11月中旬に雪が降り始め、12月初旬には長靴でやっと歩ける位まで雪が積もりました。短かった晩秋から一気に冬の装いになった森の中で雪上に佇むヤマナメクジに出会いました。雨降りの湿度の高い日や夜間などに木の幹で姿を見かけることはありましたが、冬それも雪の上で目にしたことはこれまで皆無でした。後方にはヤマナメクジが進んで来た体の幅のトレースがしっかりつき、一体どの位の時間をかけてここまで来たのだろうか？そしてどこへ？そもそも雪の上でも活動できたっけ？頭の中は「？」でいっぱい。ナメクジの仲間は晩秋から春にかけて繁殖活動するとの研究結果もあり「相手を探していたら雪に見舞われ、隠れる場所を見つけられずに彷徨ってしまった…」などと想像が膨らみました。足の構造上、前進あるのみのような「まずいなあ」となっても進むしかなかったのでしょうか。移動が苦手なことや少ない出会いでも繁殖できるよう、カタツムリと同様に1個体の中に雌雄の生殖器官を持っていますが、それでも繁殖するには相手が必要で必死に探しているところだったとか。体の粘液は滑らかに進んだり、体の保湿を担い断熱効果もあるとのこと。暑さは苦手でも寒さや雪には案外強いのかも？無防備にも見える体は生き残るための機能が満遍なく備わり、トレースがひと際強く見えました。

What is “Yamanamekuji”?

「山に棲むナメクジ」

ナメクジ科

体長：最大約 20 cm

分布：北海道・四国・九州

日本固有種。日中は落ち葉や倒木の下などに潜み、天敵の少ない夜間に活動し、落ち葉やキノコ、樹皮についたコケなどを食べる。体を覆う粘液はムチンという成分を多く含み、天敵に襲われた時には特別濃厚な粘液を出して捕食者の口を封じることがある。

(参考図書：「ナメクジの言い分」他)

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomori

光 と 色 の
いろいろ

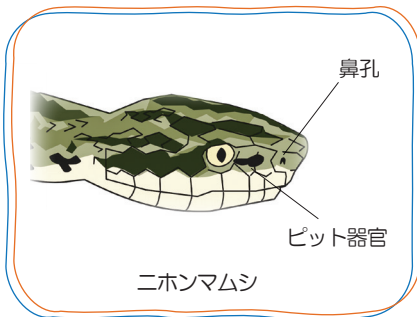
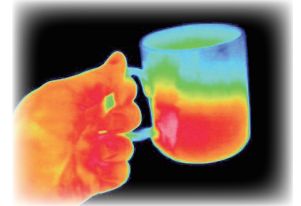
No. 5

冬季開館時の日課の一つは、ペレットストーブに火を熾すことです。朝の室温は冷蔵庫並みに下がり一桁ですが、燃焼による熱が徐々に館内を心地よい空間へと変えていきます。炉内には耐火煉瓦が仕込まれていて、一度温まると温かさが持続し、揺れる本物の炎は心までぽかぽか温めてくれます。前々回は紫外線を取り上げましたが、今回のテーマは赤外線です。



見えない波長の赤外線は、意識せずとも日常にとけ込んでいる。

太陽光の中で赤外線は波長 $780\text{nm} \sim 1,000,000\text{nm}$ の範囲で、全体の約43%を占めています。赤外線を吸収した物体は、原子や分子が熱運動を起こし、熱を放射します。これは、私たち自身を含め、絶対零度 (-273C) 以上のすべての物体が赤外線を放出していることを意味します。赤外線は目に見えませんが、サーモグラフィーという装置を使って可視化でき、空港や病院などで使用されています。日常生活では、リモコン、暖房器具、熱を感知する火災報知器など、赤外線を利用した技術が広く普及しています。



赤外線を利用しているのは人間だけではありません。ニホンマムシは鼻孔と目の間にピット器官と呼ばれる赤外線センサーを持ち、体温のある動物から出ている熱を感知し、その位置や大きさ等を探る事ができます。そのおかげで視覚に頼らずとも、暗闇の中で獲物を把握する事ができます。

実は、多くの生きものが赤外線を行動の一部として利用しています。変温動物や恒温動物は、赤外線の吸収や放射を巧みに活用しながら、進化してきました。赤外線は、生物が環境に適応し効率的に生存するための重要な要素となっています。



アミハリ・バーズ
Vol. 6 1

ハシボソガラス

科名：カラス科
全長：約50cm
生態：留鳥
分布：全国

路上でクルミ割りにいそしむ、ハシボソガラスを見かける事があります。上空からクルミを落下させて割る、または走行している車に轆かせて割る。こうした行動はハシボソガラス特有で、ハシブトガラスには見られないそうです。また、上空から石を落として車や太陽光パネルに当てる事例も報告されており、暇つぶしの遊びと考えられています。クルミ割りも、中身を食べるだけの目的ではなく娯楽の要素もあるのでしょうか？



ごく身近な野鳥ですが、実は『古事記』や『日本書紀』では「八咫鳥」という記述があり、「導きの神」あるいは「太陽の化身」とされ一目置かれています。3本足の特徴的な姿は熊野本宮大社のシンボルであり、日本サッカー協会のエンブレムにも使用されています。「暁鳥」とも呼ばれ縁起がいいイメージがあるので、石など落とさずにクルミ割りを極めてほしい所です。



おかげさまで開設 20 周年を迎えました！

スタッフの目から見た網張ビジターセンターの20年

大堀 拓（元網張ビジターセンター主任解説員）

第五話 「ビジターセンターに通う日々」

環境省のレンジャー、町役場の運転手、パソコンのインストラクター、印刷会社の営業員、たばこ会社の社員、イラストレーター、中学校の教員、この人たちに共通するものは？答えは今まで網張ビジターセンターに勤務したスタッフの以前の職業です。立上げ時の主任が環境省 OB だった以外、自然研究分野と全く関係ない所で働いてきた「しろと衆」がビジターセンターのバトンを 20 年の間つないできたのです。

来館者によく言われるのは「こんな素敵な自然の中で好きなお仕事ができるなんてうらやましい」。確かに！晴れ渡った山々を見ながら仕事をする「贅沢な日」もあります。でも炎天下でアブやブヨに刺されながら外来植物を抜き続けた日、大雨洪水警報で途中の橋が流されないか恐怖感に襲われながら入口に土嚢を積んだ日、森林管理署と一緒に凍えそうな手で



豪雨に備えて土嚢を積み



危険木の処理

危険木を処理した日、永遠に降り止まないように思われる重い雪の中で建物を守るために除雪を続けた日もスタッフにとっての日常なのです。



豪雪で入口まで埋まる

「自然が好きなこと」と「自然の中で働くこと」はイコールではないことが分かってきます。麓から毎日片道数 10km を網張まで通うのですが、冬期間は除雪が間に合わない深雪の中を走り、倒木で通行止めになって迂回路を探し、路面凍結でテカテカの連続カーブを切り抜けてくる毎日の行き帰りが緊張の連続。その一方で爽やかなグリーンシャワーを浴び、赤く染まる紅葉のトンネルをくぐり、時にはクマやキツネと目を合わせ、四季を肌で感じながら通勤する「特権」もあります。

そんな中、スタッフが一番気をつかうのが自分の体調管理。

なにせ冬期以外は毎日閉館で予備人員がいないので一人でも休むと大変です。長期休暇とも全く無縁の職場で働き続けながらの健康維持は簡単ではありません。体だけでなくメンタル面も維持していく必要があります。来館者に対しぶっさらぼうな対応は NG。不機嫌な顔で自然解説はできません。例えば体調が今一つで事前準備も不十分なまま迎えた行事の日の朝、今にも雨が落ちてきそうな暗い空、家を出るスタッフの気持ちは最悪です。それでも「大丈夫、何とかなる」と自分に言い聞かせながらビジターセンターに向うのです。その気持ちの底に「がんばっているのは自分たちだけでは無い」という他のビジターセンターへの想いがあります。どこのビジターセンターもそれぞれ事情を抱えた運営環境の下で非正規雇用のスタッフが知恵をふりしぼって自然公園の魅力を伝えようと日々奮闘しています。そんな仲間たちと資料や情報の交換を行い、時には実際に訪問し合って展示や行事のやり方を学び合うことで励まされるのです。

「しろと衆」であるスタッフが少しでも自分たちのレベルアップを図ろうと忙しい業務の合間をぬって続けてきたのが「スタッフ研修」。毎回、交代で自分たちの業務に参考になりそうなテーマを選んでレポートします。「自然公園制度」「火



スタッフ研修レポート「アミレボ」

山防災」「多様なカメムシ」「食べられる山野草」などその幅広い内容はそれぞれのスタッフの個性と興味が強く反映されます。行事運営一つとってもスタッフの間で意見がぶつかることも珍しくなく、マニュアルでは解決できない課題を一つずつ乗り越えながらお互いの絆を深めていきます。

ある時、沖縄から来た女性に言われました。「あちこち訪ねただけでスタッフ一人一人の人間性でビジターセンターの雰囲気全く違ってくるのよ。あなた達は気が付かないかもしれないけれどね」。もう一つ忘れていけないのは、一日も欠かさず館内の清掃を続けてくれる優しい「お姉さんたち」の存在。旅をしていて心に残るのは、どんな豪華な内装よりも清潔なトイレだったことを皆さん良くご存じでしょう。

網張の森定点観察

「マザーツリー」編

網張の森の「マザーツリー」は、散策路から離れているため、積雪期にしか訪れることができません。推定樹齢 350 年、幹回り 454 cm、直径 144 cm を誇るブナの木です。この地域が国立公園に指定される遥か昔から、多様な動植物にとって母なる木としてこの森を見守り続けてきたことでしょう。枯損木ながら、その凛とした姿は印象的で、冬の森では目印となり、会えると安心感を与えてくれる存在でした。残念ながら、2024 年 12 月に倒木が確認されました。この木への感謝の意を込めて、記録写真を通じて経年の変化を振り返ります。



2005 年



2007 年



2008 年



2009 年



2010 年



2011 年



2016 年



2017 年



2020 年



2021 年



2022 年



2023 年



2024 年 1 月



2025 年 1 月

倒れた「マザーツリー」は雪に覆われていました。今後も、多くの生物が、この倒木を利用し命を育むことでしょう。森の多様性や循環において、これからも大きな存在です。

(画像提供：岩手山地区パークボランティア)

今シーズンはたっぷりの雪に恵まれて!

12/22 「冬の網張の森でクリスマス気分★」 (スノーシューハイキング)



里では積雪量の少ない今シーズンですが、網張ではたっぷりの雪が降り、フカフカの雪の感触を楽しみながら歩きました。キャンプ場ではサンタクロースが登場し、プレゼントやクリスマスソングで一足早いクリスマス。「スノーシューは挑戦しなかった事の1つ。ハードルが高いと思っていたがとても楽しく歩くことができ、世界が広がった」参加者感想より。総勢 17 名

1/13 網張ビジターセンター開設 20 周年記念行事 「この時期しか歩けない!」 冬の鞍掛山麓探検スノーシューウォーク」



今回は鞍掛山西麓から森に入り、砂防ダムから山頂を目指し、東側登山口へ下山するルートを歩きました。登山道ではない木々の間を抜けると、ウサギやキツネなどの足跡がたくさん見られました。晴天に恵まれ、間近に見える岩手山の眺めもよく、冬山を満喫しました。「普段自分では歩けないコースを歩いてよかった」参加者感想より。総勢 27 名

インフォメーション

1/5~3/30 『網張の森雪上ハイキング』
(行事日を除く毎週土日開催)

10:00~11:00 参加料:一人400円

2/1(土) 『網張の森でイグルーを作ろう!』

10:00~12:00 参加料:大人 800円 小学生 400円

2/11(火・祝)・3/20(木・祝) 『モモンガ調査体験』

10:00~12:00 参加料:一人500円

3/9(日) 『網張の森大木巡り』 (スノーシューハイキング)

10:00~13:00 参加料:大人 800円 小学生 400円

4/6(日) 『根開きのブナの森で春を探そう』
(スノーシューハイキング)

9:30~13:30 参加料:大人 800円 小学生以下 400円

* 各行事「網張ビジターセンター集合」
定員及びスノーシューレンタル等は HP を御覧ください。

網張ビジターセンター開設 20 周年!

2025 年 1 月 21 日に開設 20 周年を迎えました。昨年 4 月より行事参加者に記念の絵はがきをプレゼントしています。1 月 21 日はあいにく休館日のため、1 月 18 日の雪上ハイキングにご参加いただいた皆さんと一緒に 20 周年をお祝いました。



依頼行事: 11/18 雫石町立雫石小学校児童館行事

雫石小学校 150 周年記念行事の代休日。網張の森で、ドングリ等の木の実や形の違う落ち葉を見つけながら天空の丘まで散策しました。



好評です! 森の素材で作る手作り体験

冬のミニ企画恒例のクリスマスのリース、ミニツリーやオーナメント作りでは、それぞれ素敵な作品が完成しました。



「網張の森雪上ハイキング」 毎週土日開催 1 月より開始しています!

冬の森をスノーシューを履いて歩くと、無雪期とは違う森の魅力



に出会えます。動物の足跡探しやバードウォッチング、植物の冬芽の観察を楽しみながら 1 時間ほど歩きます。まだ誰も歩いていない森を自由に歩けることも醍醐味の 1 つです。

冬季特別企画 1/18~3/16 「網張の森にすんでいる動物たち」

網張の森で見られる動物や、厳しい冬の過ごし方などに関心を持ってもらいたいと企画しました。センサーカメラで撮影された動物の写真展・足跡クイズ・動物たちの衣替え・スケッチ体験コーナー等を設置しています。ぜひご覧ください。



「網張の森、冬の“おすすめ” 散策マップ」が新しくなりました!



コース名や目印となる木の愛称等も追加し、より親しみやすくなりました。

網張温泉スキー場 スキーセンターに 「網張ビジターセンター コーナー」を開設!

スキー目的で網張を訪れた方々にビジターセンターを知っていただけるよう、企画展や行事をはじめ、スノーシューでの雪上散策など冬の森の楽しみ方も併せてご紹介しています。

-現在開催中のビジターセンター企画展-1月4日(土)~2月28日(金) -網張ビジターセンター開設 20 周年記念寄贈写真展- 「つづくこと、つづくところ」

開設 20 周年を記念し、皆様に支えられながら歩んできたセンターの歴史の中で、寄贈いただきました作品を展示しています。十和田八幡平国立公園の雄大な自然や多彩な動植物をテーマにしたものや、国立公園指定以前の貴重な作品もありますので、その時代の空気感も含めてお楽しみ下さい。



モモンガのつぶやき

網張の森を観察し始めて 5 年目。この森で初めて目にする花が咲いていた。ムラサキシキブかと思いついで確認したが、コムラサキとの違いがはっきりしない。果軸と葉柄の出る位置、葉の鋸歯など、それぞれ特徴が示されているが、実物と見比べても確信が持てないまま、果実の時期を迎えた。疎らに付いている果実を見て、やはりムラサキシキブかと思ったが、どこかスッキリしない気持ちだった。11 月のある日、冬芽を目にした時、これまでのモヤモヤが一気に晴れた気がした。紡錘形の裸芽! ムラサキシキブの冬芽だった。「冬芽図鑑」で確認しても、それぞれの違いは明白だ。季節が巡り、ようやく答え合わせができた。(C)



十和田八幡平国立公園 網張ビジターセンター

来館者数 ◆ 11月 1,096人 ◆ 12月 392人
朝9時のビジターセンター平均気温 ◆ 11月 1.4℃ ◆ 12月 -6.2℃

発行 網張ビジターセンター運営協議会

〒020-0585 岩手県岩手郡雫石町長山小松倉 1-2 (網張温泉)

TEL 019-693-3777 FAX 019-693-3778

URL <http://amihari17.ec-net.jp>

E-mail amihari@vanilla.ocn.ne.jp

開館 冬期(11月から3月末まで) 9時~17時 毎週火曜日休館